

学校課題研究テーマ

「かかわりあいの中で自ら学ぶ子どもの育成」

I 副主題について

25年度 かかわりあい学び合い自ら考える力を育てる授業の工夫
(かかわり合いの形態・形式)



26年度 聴き合い、つながり合う学びの工夫
(かかわり合いの意欲の向上)



27年度・聴き合い、伝え合う中で高める論理的思考力
(かかわり合いの内容の工夫・中身の充実)

国語科を学校課題の教科に選んだとき（授業を行うとき）

国語授業4つの風景

- ①イメージと感覚だけの授業
- ②内容をなぞるだけの授業
- ③暗記中心の授業
- ④活動中心の授業

に陥りがちである。



そこで、国語の授業に足りない「論理的思考力」を育成するために、次の10のことを心がけていく。

論理的な思考に必要な10の要素

- ①理由・・・「～と考えられた理由は・・・だからです」という思考ができること
- ②順序・・・「はじめ・なか・おわり」という順序立てた思考ができること
- ③活用・・・「～を使うと・・・になる」という思考ができること
- ④きまり・・・「～という決まりがあるため・・・」という思考ができること
- ⑤類似・・・「〇〇と××のところは△△なところが似ている」という思考ができること
- ⑥相違・・・「〇〇と××のところは△△なところが違っている」という思考ができること
- ⑦類推・・・「もし～だとすると・・・」という思考ができること
- ⑧具体化・・・より実際に即した別の言葉に置き換えて思考ができること
- ⑨抽象化・・・より一般化した別の言葉に置き換えて思考ができること
- ⑩因果関係・・・「～だから・・・が起こった」という思考ができること

Ⅱ 授業研究の内容

- ①子どもたちのかかわり合い（聴き合い、伝え合う）の中身を充実させる。
 - ・かかわり合いの質を高める。それぞれが、根拠のある自分の考え（マイプレゼン）をもってかかわり合うようにさせていく。→ 論理的思考力の育成
 - ・系統的、全学年統一の考え方で進める。

- ②全職員の指導力向上を目指して（授業力をあげる）
 - ・物語文、説明文にしぼって授業研究をする。
 - ・ねらいにせまるために、どこで子どもたちをかかわらせるとよいか話し合い、授業を組んでいく。（指導案検討会）

1 「論理的思考力」をつける文学の授業作り （白石範孝先生の国語授業実践）

○文学の基本 10の観点

（10の観点を使って論理的に文学作品を味わう授業をやっていく。）

- ①いつ？（時）
- ②どこで？（場所）
- ③どんな人物が？（登場人物）
- ④誰が中心？（中心人物）
- ⑤どんなことがあった？（事件）
- ⑥かわったことは？
- ⑦いちばん大きくかわったことは？
- ⑧お話の図（人物・出来事の関係図）
- ⑨一文で書くと？（主題・テーマ）
- ⑩声に出して言える言葉・文

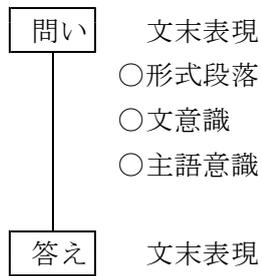
2 「論理的思考力」をつける説明文の授業作り

○説明文の基本 10の観点

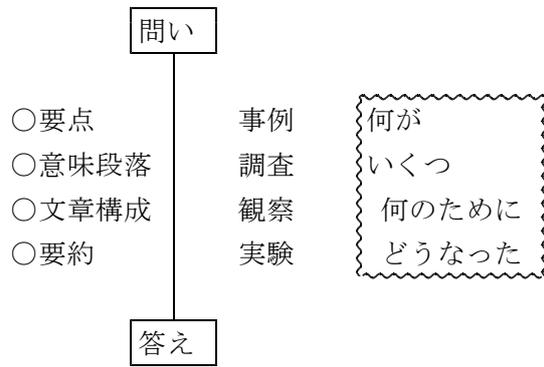
（10の観点を使って論理的に説明文を味わう授業をやっていく。）

- ①題名
- ②形式段落
- ③意味段落
- ④形式段落の主語をとらえる
- ⑤要点
- ⑥三部構成
- ⑦問いと答えの関係
- ⑧文章構成図
- ⑨事例（具体と抽象）
- ⑩要旨（主張）

低学年



中学年



高学年

